

児童生徒の学力と生活習慣について

平成31年度（令和元年度）
全国学力学習状況調査の結果概要

毎年、文部科学省が全国の小・

中学校を対象に実施している「全国学力・学習状況調査」の今年の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

この調査は、児童生徒の学力のほか、学習や生活習慣などの一部についてその傾向をみるものであり、各学校での授業や生活指導などに役立てていくことを目的としています。

【調査の概要】

■実施日 平成31年4月18日(木)

■参加状況

小学校6年生 34名

中学校3年生 29名

■内容

○教科に関する調査（国語・算数・数学・英語）

※昨年までのA・B問題の区分はなくなりまし

た

○質問紙調査（生活習慣・学習意欲・学習方法・学習環境などに関する調査）

■結果公表

教科に関する調査の結果は、平均正答率の全道・全国平均との差を数字ではなく言葉で表現します。

【教科に関する調査の結果】

	小学校6年生		中学校3年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0
清里	低い	低い	やや低い	ほぼ同じ	ほぼ同じ
全道	62.9	64.3	72.0	58.1	54.3
清里	やや低い	低い	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ

《小学校6年生》

国語・算数ともに全道・全国

平均より低い状況で、特に算数の「量と測定」の分野に課題があります。

しかし、国語の「読むこと」については、全道・全国の正答率を上回っています。

《中学校3年生》

各教科とも、おおむね全道・全国の正答率と同じぐらいの状況ですが、英語の「書くこと」や数学の「図形」の分野に課題があります。

しかし、英語の「読むこと」「聞くこと」、数学の「資料の活用」「関数」といった分野は全道・全国の正答率を上回っています。

【質問紙調査の結果】

小学校6年生

【全国平均と比較して好ましいと考えられるもの】

- ・学校に行くのが楽しいと思っている児童の割合が高い
- ・学校のきまり（規則）を守っている児童の割合が高い
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている児童の割合が大変高い

【全国平均と比較して課題と考えられるもの】

- ・自分にはよいところがあると思っている児童の割合が低い
- ・将来の夢や希望を持っている児童の割合が低い

中学校3年生

【全国平均と比較して好ましいと考えられるもの】

- ・学校のきまり（規則）を守っている生徒の割合が高い
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている生徒の割合が大変高い

【全国平均と比較して課題と考えられるもの】

- ・自分にはよいところがあると思っている生徒の割合が低い
- ・難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している生徒の割合が低い

傾向としては、規範意識が比較的高く、いじめがいないことであると認識している児童生徒の割合が大変高くなっています。

しかし、自己肯定感や挑戦する気持ちなどが低くなっており、課題と考えられます。

【これからの取組み】

学習については、これまで同様に「学習支援員」や「特別支援教育支援員」を教職員のほかに配置するとともに、中学校では数学に続いて英語についても

少人数指導を取り入れていきます。また、夏休みと冬休みに「学習サポート教室」を開催するとともに、小学校で始まった英語

の授業への外国人英語指導助手の派遣、さらには今年度から地域の教育資源を活用し、質の高い学習活動を展開するために、

「コミュニティスクールコーディネーター」を学校に配置するなど、今後の取り組みをはじめとしています。

地域の皆様には、「コミュニティ・スクールの制度を活用した学校支援や日常的な児童生徒の見守りなどにご協力をお願いします。

また、保護者の皆様には、生活習慣の見直しや家庭学習の取り組み、チャレンジ精神を培うような働きかけなどをお願いいたします。

清里町は、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」、この3つがバランスよく培われていくよう教育環境の充実に努めていきます。

町民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

■問い合わせ

生涯学習課学校教育グループ

☎25-2139